

2026年9月20日（日）第571回・ボイスキュー「グラウンドワーク三島・アクショントーク」対話型書籍「AIジャンボ」開発の背景とテレビ特番告知

番組ダイジェスト

地域再生 × 生成AI

源兵衛川再生特番の告知と対話型AI「AIジャンボ」

三島「水の庭園」再生ドキュメントと、30年の実践知約1億字を宿す独自AIの全貌

📺 テレビ朝日「相葉ヒロミのお困りごとですか」3時間SP

全国放送

放送日時

名所・源兵衛川が直面する「水の庭園」危機を全力解決。タレントが現場に寄り添い泥にまみれた渾身の口ケ。

🕒 現場の深刻な課題

・3箇所の湧水停止・池のヘドロ堆積

・竹の侵入・外来種蔓延・梅花の枯死

・かつて8羽いたカワセミの消失危機

♡ ロケ現場の熱量と理念

朝8時から夜9時半まで通しロケ（休憩わずか15分）。相葉・ヒロミ両氏の真摯な汗にジャンボさんも感泣。

「日本を明るく元気に。お困り人のもとへ出向き全力解決。」

比叡山の苔・池再生に比肩する地域ドキュメントの金字塔

三島再生

グラウンドワーク三島

9.24 木

19:00 - 22:00

テレビ朝日系列 3時間スペシャル特番にて放映

🕒 13.5時間の連続実働ロケ

出演陣が地域住民と一体となって現場作業を完遂

📖 学習コーパス規模

対話型AI「AIジャンボ」の技術機構と独自性

閉鎖型コーパス

約1億字

渡辺豊博氏 30年の実践知

30年以上にわたり活字化・整形されてきた講演録、報告書、著作群を完全に構造化してインデックス。

特許出願済み技術

膨大ローカルデータの高精度対話化アーキテクチャ

オープンWebを参照するChatGPT等の汎用AIとは根本的に異なり、個人の固有データのみから濃密な知恵を紡ぐ。

📖 「図書館モデル」設計思想

大分類から棚（サブカテゴリ）を多層構築。問いに対して過去発言の最適箇所を網羅的かつ高速に照合。

🎯 上品な人格制御 & プレーキ

断定的表現を避け節度ある口調に調律。誹謗中傷や悪意ある問いには応答しない厳格な安全制御を実装。

開発パートナー：株式会社アイズファクトリー（2000年創業データサイエンス専業）

影 簡 伊

🌟 社会的価値と人間的な対話の実践

Next Actions

タスク

📌 事例：若手県庁職員のキャリア相談

「仕事はきちんと果たしつつ、もう一人の自分の舞台＝セカンドステージを見つける。資格取得等で自己を豊かに」

→ 迷える来訪者に即時で芯のある処方提示し、前向きな姿勢を導く。

🎯 未来の知見継承モデル：生前の実践と思考をアーカイブし、死後対話や追悼の場における本音の継承システムへの応用を視野に展開。

地域活動への共創参画

開発陣自身が田植え・収穫祭など現地活動に参加し解像度を高めた成果

📺 特番「相葉ヒロミのお困りごとですか」視聴

@視聴者・リスナー

9月24日（木）19:00～22:00

📺 スタジオ移動 & 追加収録（Bスタジオ）実施

@制作チーム（岡本氏・渡辺氏）

同日・次回続編用

📸 出演者・ゲスト全員での記念写真撮影

@全員

収録直後

次回放送：アイズファクトリーを迎えた続編を予定

→

本放送は、三島市・源兵衛川の再生が、テレビ朝日「相葉ヒロミのお困りごとですか？」の3時間特番で取り上げられる告知とともに、ゲストのアイズファクトリー3名を迎え、渡辺豊博氏（ジャンボさん）の約1億字の知見をもとに構築された対話型書籍「AIジャンボ」の技術的仕組み、独自性、社会的価値を詳細に語った。

テレビ朝日「相葉ヒロミのお困りごとですか？」の告知

番組本編では、まず、テレビ朝日「相葉ヒロミのお困りごとですカー？」の**3時間スペシャル**で、源兵衛川が特集されることを正式に告知しました。

放送は、**9月24日（木）19:00～22:00** までです。

三島市の名所・源兵衛川にある「水の庭園」の再生を依頼テーマに、相葉・ヒロミ両氏が、現場で解決に挑む。

ロケは**8月21日**、朝**8時**から夜**9時半**まで通しで行われ、休憩はわずか**15分**。タレントが、単なる出演者に留まらず、地域に寄り添い、全力で汗を流した姿に、ジャンボさんは「涙が出るほど嬉しかった」と感慨を語る。

取り上げられる課題は、放置竹林の拡大、**3箇所**の湧水地の停止、池へのヘドロの堆積、外来種の蔓延、三島梅花藻や苔の枯死など、手を尽くさねば再生困難な状態であった。

かつては、カワセミが「**8匹**」も見られたが、現在は、ほぼ不在という原風景の喪失にも触れ、過去の「比叡山の苔・池の再生」**3時間特番**に比肩する重みを強調した。

番組の理念「日本を明るく元気に。お困り人のもとへ出向き全力解決。」を紹介し、視聴を強く呼びかけた。

ゲスト紹介とアイズファクトリーの事業概要

今回のゲストは、株式会社アイズファクトリーより、代表取締役・影浦雄一氏、取締役 **CTO**・筒井直人氏、執行役員・伊藤一馬氏の**3名**。

創業は**2000年**で、データ解析・データサイエンスという言葉が一般化する以前から、データで顧客課題を解決する事業を継続してきた。

生成 **AI** の台頭（**2～3年前**）以降は、生成 **AI** を統合したソリューションを展開。

渡辺氏とは、約**1年以上**にわたり対話と検討を重ね、同氏の膨大な知見を生成 **AI** で誰にでも届ける仕組みの構築に取り組んだ。

この過程で同社は、技術的な飛躍を遂げ、膨大データの生成 **AI** 活用に関する特許出願にも至っている。

影浦氏は、三島の環境や仕事のしやすさへの愛着、渡辺氏への敬意を述べ、今回得たノウハウの他分野展開にも触れた。

対話型書籍「**AI** ジャンボ」の開発経緯と技術的仕組み

「AI ジャンボ」は、渡辺氏が 30 年以上にわたり蓄積してきた講演録、レポート、書籍等の「約 1 億字」に及ぶ記録をデータソースとする。

核となる設計思想は「図書館モデルである」。

内容に応じて、大きな分類を設け、さらに棚（サブカテゴリ）を構築することで、ユーザーの問いに対して、過去発言のどこが、該当するかを素早く網羅的に探索・照合する。

重要なのは、元データが、活字として記録・整形されていたこと。文字化・構造化が無ければ、この精度・広がりでの対話は成し得なかったという。

一般的な著名人を AI 化する場合と比較しても、ジャンボさんのデータは、話題の幅がきわめて広く、この多様性が、回答の「味」と深みを生み出す。

また、ChatGPT のようにインターネットの公開情報を参照する汎用生成 AI とは異なり、AI ジャンボは、渡辺氏の固有データのみを参照するため、回答の質・密度・一貫性が大きく異なる。

開発では、断定的過ぎる口調を避け「上品」かつ節度ある応答を生成するように制御、誹謗中傷等を抑制するブレーキを組み込み、実利用に耐える実直な人格的振る舞いに近づけている。

こうした実装・運用知見は、特許出願にも結実した。

「AI ジャンボ」の独自性と社会的価値

「AI ジャンボ」は、単なる検索装置にとどまらず、特定個人の経験知に基づく「閉鎖型コーパス」から回答を紡ぐ点が独創的である。

外部ウェブ情報に依存せず、本人の言葉・実践・価値観が、文脈の芯として流れるために、回答は分厚く、時に相談者の心に直接届く。

実例として、静岡県庁職員の若手が仕事上の悩みを抱え、来訪した際、AI ジャンボが「仕事はきちんとしつつ、もう一人の自分の舞台＝セカンドステージを見つける。資格取得などで自己を豊かに」という趣旨の処方方を即時提示した。

その回答を聞いて、相談者は表情が明るくなり、前向きな姿勢を取り戻したという。

さらに、出力制御により誹謗中傷的な応答は生成しない。

実験的に攻撃的な質問を与えても、回答が出力されない挙動が確認された。人格そのものを持つわけではないが、本人の語りに忠実でありつつ、倫

理的ブレーキにより、生身の人よりも丁寧で、人間的な対話を実現する局面もある。

将来展望として、故人の知見継承に資する仕組み（例：葬儀での二次元コード配布による死後対話）にも言及され、形式的な追悼から本音で向き合える場づくりへの可能性が示された。

次回放送への期待と番組クロージング

話題は尽きず、次回も同じゲストを迎えて続編を行う意向が示された。

アイズファクトリーのメンバーは、田植え・収穫祭など三島の現地活動にも参加しており、単なる受託開発にとどまらない現場理解が AI の質に反映されていることが共有された。

終盤にはゲスト 3 名（代表取締役・影浦雄一氏、取締役 CTO・筒井直人氏、執行役員・伊藤一馬氏）を改めて紹介した。